

みどり	学級活動	「ウォーターフェスティバルをしよう」		6 時間
単元 の 目 標	自分の気持ちや考えを押し通したり、むやみに譲ったりせず、話し合いの目的に応じて自分の意見を譲ることができる。		【期待目標】長期的 各個人に期待する最大限のレベルや成果を目指していく。	
単元末における具体的な児童の姿	・自分や係の仕事を友達と協力して取り組む。 ・自分や係の仕事に責任をもって取り組み、低学年と一緒に楽しむことができる。 ・不安を解消し、楽しく取り組むことができる。	実際	・子供たちからの改善点はあったが、友達と協力して取り組んでいた。 ・みどり学級の全員が自分たちの考えた遊びについて楽しんでいたことが喜びとして感想に書かれた。 ・本番当日まで不安感をもっていた児童がいたが、全員が楽しかったと感想をもてた。	
個人間差異		手立て		効果
① 進 度 の 違 い	② 言 語 化 する 力 の 違 い ③ 話 を 聞 く 力 の 違 い ④ 感 じ 取 り 方 の 違 い	① ・話し合いの目的を再確認させるために、議題の提案理由に立ち戻るよう声をかける。 ・話し合いの流れを整理させるために、板書を毎回統一する。板書を見て話し合いの流れを確認することができるようにする。 ② ・相手に伝わるよう、考えを復唱したり、教員が質問をしたりして、正しく相手に伝わるようにする。 ・理由が伝わりにくい場合は、教員と話をしながら伝えたいことを整理し、言語化できるようにする。 ③ ・友達の意見を聞くことができるよう、声を掛けたり合図をしたりして意識を向けさせる。 ・出た意見について理解ができていない場合は、教員が再度説明をし、内容を整理することで友達の意見の良さに気付くことができるようにする。 ④ 他者の心情等を理解しやすいように、役割を交代して相手の気持ちを考えさせたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えたりすること、視覚的に表したりする指導を取り入れる。		◎ ○ ○ △ ○ ○ △
② 言 語 化 する 力 の 違 い				
③ 話 を 聞 く 力 の 違 い				
④ 感 じ 取 り 方 の 違 い				
成果	・全員が理由をつけて意見を出すことができた。 ・個人の目標を事前に示し、授業の前にも提示をしたことで、目標を明確にすることができた。そのため、個人の目標を達成しようとする姿がみられた。 ・情緒学級の児童にとって、欠席者が多い上、観覧の教員や違う教室と、いつもと違う環境での授業は大きな負担となることであったが、頑張って話し合い活動をすることができた。	課題	・遊びの説明をする際に、言葉だけではイメージがしづらかった。絵や図を表示することで、遊びのイメージがつかめ、話し合いもスムーズに進んだのではないかな。 ・めあてに対しての振り返りができていなかった。めあてに即した振り返りを行う必要があった。 ・声掛け以外にも話の聞き方や意見の言い方など具体的な手立てをとるべきであった。 ・T2が児童の様子を細かく見取り、めあてを達成できるよう児童の支援を行うべきであった。	